

1. 評価結果概要表

平成 20年 3月 21日

【評価実施概要】

事業所番号	2070201377
法人名	社会福祉法人 ハーモニー
事業所名	グループホーム・ハーモニー
所在地	松本市島内字広田4068-1 (電話) 0263-48-5960

評価機関名	株式会社福祉経営サービス研究所 サービス評価推進室		
所在地	長野県松本市深志3丁目7番17号		
訪問調査日	平成20年3月18日	評価確定日	平成20年4月4日

【情報提供票より】(20年 2月 11日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	21 人	常勤13人	非常勤8人 常勤換算13.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	1・2	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	23,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,100 円

(4) 利用者の概要 (2月 11日 現在)

利用者人数	18 名	男性 2 名	女性 16 名
要介護1	2名	要介護2	8名
要介護3	7名	要介護4	1名
要介護5		要支援2	
年齢	平均 85.2 歳	最低 75 歳	最高 87 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	杉山外科医院 清水メンタルクリニック なお歯科医院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域に密着した総合的な福祉サービスを展開されている社会福祉法人ハーモニーを母体に持ち、老人保健施設やデイサービス等に隣接しグループホームハーモニーが設置されており、母体施設とのさまざまな連携が図られている。ホーム周辺には木陰に囲まれた松本市の音楽文化ホールがあり、入居者が憩いの散歩やコンサートにと活用されている。また近隣には大型スーパーがあり入居者にとってお買い物はなによりの楽しみでもあり格好な環境の下にあります。昔懐かしい重要文化財旧開智学校を模した望楼つきの2階建ての木の温もりと安心と意欲を生み出す共用空間の設営に気配りがされている。なおホーム長は看護師としての専門性と長い経験を持ち合わせ、認知症ケアに高い信念を持って職員と共に馴染みの環境と馴染みの人間関係の構築にあたられている。入居者は明るく、自由にゆったりと穏やかに日常生活を送られている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価において主な改善課題はなかったため該当しません。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価にあたり職員全員で検討が行われ、評価の意義や目的を確認し、(ケアの振り返り・見直し・意識合わせ等)具体的な改善に取り組まれる努力がされている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議への積極的な参加案内により、ご家族、地域住民、地域包括センターや行政職員等の参加により、年2回開催されている。会議においてホーム活動状況報告が行われると共に、出席者より要望・意見をいただき取り上げられた検討事項の反映に努められている。(現在地域健康づくりの会に向けて「認知症予防について」のテーマで勉強会の希望があり包括支援センターと話し合いを持ち検討がされている)
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ご家族への満足度調査(アンケート)を行いご家族の意見表出への場づくり配慮がされている。なお常に苦情・意見の受け入れ体制を整え、ご家族面会時には意見・苦情等の確認に努めホームの運営に反映されている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	入居者と共に地域の行事に参加(老人会主催のお花見や文化祭等)したり、地域の子供会や婦人会の方々を招き夏祭りを開催し、地域との交流がはかられている。なお地域の民生委員・家族の会の方々に認知症の理解や接し方について勉強会も持たれている。今後更に地域との交流を深め共に暮らす地域の住民の一員として、地域で必要とされる活動や役割を担っていくために、町会、自治会に加入し、地域住民との連携が望まれます。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた馴染みの町(懐かしい町並み)を散策し昔を思い出しながらホームで安心して住み続けることのできるよう生活支援にむけ努力されている。なお管理者はホームの日々の方針、目標を具体的に職員に伝えられ、職員と共に具体的なホーム理念の構築に努められている。	○	理念を基に入居者が家庭的な環境と地域住民との交流の下で、穏やかで安心した生活支援に努められることに期待します。なお理念をご家族や訪問者(地域の方々)に理解していただくためにも、ホーム内の目に付きやすい場所に掲示されることが望まれます。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	勉強会の折に職員の姿勢・役割また入居者へのよりよい支援のあり方について職員間で話し合いが持たれている。なお職員と共に理念の再構築に向け考慮されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	入居者と共に老人会主催のお花見への参加や地域の子供会や婦人会の方々を招き夏祭りを開催したり、文化祭には入居者が作成した見事な貼り絵を展示される等地域との交流が図られている。なお地域の民生委員・家族の会の方々に認知症の理解や接し方について勉強会も行われている。	○	ともに暮らす地域住民の一員として、地域で必要とされる活動や役割を担っていくために、町会、自治会に加入し、地域住民との交流に積極的に取り組んでいかれることが望まれます。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価にあたり職員全員で検討が行われ、評価の意義や目的を確認し、(ケアの振り返り・見直し・意識合わせ等)具体的な改善に取り組まれる努力がされている。		

グループホームハーモニー

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議への積極的な参加呼びかけにより、ご家族、地域住民、地域包括センターや行政職員等の参加により年2回開催されている。会議においてホームの活動状況報告(入居者状況、事故、苦情、医療関係、研修・学習、地域交流等)が行われると共に出席者より要望・意見をいただき、取り上げられた検討事項の反映に努められている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	松本市主催の研修会へ参加してホーム介護サービスについての助言、指導を得ると共に連絡調整が行われ情報提供と共有が図られている。今後さらに関係づくりに努められ、協働関係を継続されることを望みます。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族訪問時には、入居者の日々の生活記録を参考に日常生活の状況の報告を行うと共に、金銭出納帳を明示し使途確認(サイン・押印)をいただいている。なお入居者の状態変化が見られた時には、速やかにご家族に連絡がとられている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族への満足度調査(アンケート)が行われご家族の意見表出への場面づくりに配慮されている。また常に苦情・意見等の受け入れ体制を整えご家族面会時には要望の確認に努め、一人ひとりのサービスに反映されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間の職員異動については、現在2ユニットを一人での夜勤体制が取られており、夜勤に当たられる職員は入居者と馴染みの関係が築かれているため入居者への影響がないことをお聞きした。今後さらに馴染みの職員の異動に配慮されると共に、やむない事情で異動・退職等があった時には新入職員の写真をホーム内に掲示やホーム新聞に載せられる予定と伺った。		

グループホームハーモニー

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、職員育成の重要性を認識し、多くの研修（認知症介護研修・実務者研修・人権擁護・宅老・グループホーム県連絡会主催の研修等）に参加できるよう年間計画に組み入れられ、一部勤務扱いや旅費提供も行われている。なお職員が希望する勉強会や他のグループホームへ1日研修に出向かれる等により、介護サービスの質の向上に努められている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長野県連絡会主催の学習会や松本地区グループホーム連絡会において、相互評価が実施され職員間の交流により情報交換が行われている。お互い入居者が見える身になる研修となっており、サービスの質の向上に努められている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学をし、話し合いにより理解を得る取り組みや母体の老人保健施設・デイサービスを利用しながらの待機者が時々ホームへ遊びに来られる等、馴染みながらの入居に繋がられている。なお入居者には入居時の緊張緩和のために職員が1対1で付き添い関わりを持ちながら、ホームの環境に馴染んでいただく配慮に努められている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者より昔から言い伝えられている格言や農作業の手順等、生活の中より教えられることも多く共に支え合える関係づくりに留意されている。入居者が新聞・テレビ・コンサート会場で知り得た情報（ランチコンサート等）を基に入居者の希望に添えるよう支援に努められている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の認知症の進行状態や日々の関わりの中で一人ひとりの思い・暮らし方を把握し、生活パターンを尊重しつつ、外出・ドライブ・買い物・散歩などの支援に当たられている。なお日頃より入居者の希望や要望にそった対応に配慮されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	3ヶ月に一回の介護計画の見直しが行われており、ご家族よりの要望・意見を反映すると共に、アセスメントを含め職員全員で情報交換や担当職員のモニタリングによるカンファレンスが行われている。なお日々問題点が生じた折には、その都度意見交換を図り介護計画に反映されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者に体調変化が見られた折には職員間で意見交換が図られ見直しを行い日々のケアに対応されている。なお入居者に状態変化が見られてた折にはご家族への連絡、説明は速やかに行われている。しかし状況変化が著しく対応が先になり介護計画が後回しになることもあることを伺った。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	2週に一回ホーム医による回診が行われ、入居者の健康管理が図られ入居者・ご家族の安心できる体制づくりに配慮されている。なおご家族が都合が悪い場合にはホーム職員による通院介助の支援も行われている。またホームでの看取りに備えご家族の宿泊の用意もされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を希望されている入居者には、ご家族の協力の下かかりつけ医に受診されている。なおご家族が都合の悪い場合にはホーム職員により対応されている。緊急時にはホーム医に相談しご家族に連絡の上、病院への受診・検査・治療などホーム職員により対応されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者の健康状態の重度化に伴う「看取り」についての(指針)が定められており、入居時に入居者・ご家族にホームが対応し得る最大限のケアについて説明が行われている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人ひとりを一人の人間として尊重し、尊厳を持って日々のケアにあたるよう努められている。また日頃より入居者の写真・新聞等の掲示・配布時にはご家族の承諾を得る配慮により個人情報の保護の徹底がはかられている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れ(食事・おやつ・体操等)はあるものの自由時間には入居者の思い思いの過ごし方をされている。余暇のある方には、入居者の力量にあった作業を提供されている。(洗濯物整理・ぬり絵・貼り絵・ドリル・刺し子・食事づくり等)日頃の対応の中より希望や要望を聞き取る配慮に努められている。		

グループホームハーモニー

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者が希望されるメニューを取り入れ、食材の下ごしらえ・配膳・片付けなど入居者一人ひとりの力量に合わせ職員の支援の下楽しく会話が弾んでいる。食事時には職員と共に同じテーブルを囲み思い思いの話をしながら楽しい雰囲気ですべてがされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日、入浴時間等を職員の声掛けにより周知をはかり入居者一人ひとり希望にそった楽しい入浴が実施されている。なお就寝前の希望にも対応できる柔軟な体制づくりに努められている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	買い物やドライブに出かけることで気晴らしの支援が行われている。なお日常の支援の中で寄り添いの支援に心がけると共に、入居者の力量や得意分野の把握に努め役割や楽しみごとの場面づくりに配慮がされている。(豆の選別・洗濯物たたみ・タオルたたみ・モップ掛け・玄関掃除・調理手伝い等)。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	住み慣れた地域模様を眺めたり、屋内では感じ取ることができない季節感を味わっていただくための散歩への支援が積極的に行われている。なお居室で好物のお菓子を楽しみに食する為、買い物に出かけるなどの個別支援が行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームでは日中鍵をかけない暮らしの大切さを認識されており、日中は施錠はされていない。職員の見配り・気配りにより、日中外出願望が見られる折には引き止めるのではなく、可能な限り寄りそいの支援が行われている。		

グループホームハーモニー

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災時対応マニュアルを作成し全職員に周知が図られている。年一回地域の消防団の協力の下、災害時の避難訓練が行われている。なお避難時に必要な物品(防災頭巾・ヘルメット・簡易担架等)も用意されている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	最低一日の水分摂取量を1000mlの飲水ができるよう支援がされている。なお比較的飲水摂取量が少ない方にはチェックリストを作成し職員全員で1日の水分量の把握に努められている。また日頃バランスの良い食生活に努められており、2~3ヶ月に1回栄養摂取量の確認が行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム玄関には季節の花が生けられ季節感と家庭的な雰囲気がかもしだされ、廊下、居間には生け花や入居者が根気よく作られた見事な貼り絵や折り紙があちこちに飾られると共に、入居者が昔描かれたという花の絵が額に入れて飾られており、明るく家庭的で居心地よく過せる工夫がされている。訪問日はお彼岸中であり「おはぎ」を皆さんで作られ、懐かしい「おはぎ」の香りの中で食し満足そうな笑顔が見られた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には仏壇・タンス・鏡台・写真・好みの人形・ドレッサー・炬燵などが持ち込まれ、入居者一人ひとり思い思いの居心地よく過せる工夫がされている。		

※ ■ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。